

第12回定期総会 7月30日(日) 於:静岡労政会館およびZoom

## 労働組合の社会的影響力の強化

～組合員の力を引き出す教訓を米国の経験に学ぶ～

報告者: 布施 恵輔 氏 (全労連事務局次長・国際局長)

### ●今日お話ししたいこと

米国労働運動の高揚とその背景  
組合員一人ひとりの力を引き出すために  
全労連の模索と変革の方向について

### ●今、労働者が声を上げている

アメリカ: ニューヨーク大病院のストライキ、  
スターバックスのストライキ  
イギリス: 看護師の10万人の過去最大のスト  
フランス: 年金改悪に反対するゼネスト

### ●米国労働運動の高揚に学ぶ

組織率 10.1% (2022年推定)  
圧倒的に保守的で労使協調  
一方でたたかう労働組合の運動が前進  
労働組合を組織する場合には、選挙において労働者の過半数の支持を得なければならない。

### ●アマゾンの組織化

22年4月、ニューヨーク市スタテン島のAmazon  
配送倉庫で国初のAmazon労組結成  
8000人以上が組織化され、100の配送センター  
に広がる動き  
激しい組合攻撃を跳ね返した「組織化」  
徹底した関係構築・対話  
ユニオンバスターに対抗し家族的な雰囲気を作  
って働きかけ

### ●スターバックスの組織化

21年12月にニューヨーク州バッファローで最  
初のスタバ店舗で労組結成  
最初の組合が結成されて1年で6,951人を組織  
化  
36州、174都市で組合結成

### ●背景①2018年前後の教員スト

2018年のスト参加数 48万5000人  
うち37万5千人が教員、7万5千人が介護労働  
者

### ●背景②労使関係、産業構造の変化

雇用の流動化、不安定化 労働者構造の変化  
製造業からサービス業への構造転換  
(従来型労組の弱体化)

パンデミックで労働者が怒り、覚醒する  
バーニー・サンダースのキャンペーンの影響

### ●背景③米国の青年の変化と組織化モデル

社会主義に好意的 Z世代: 49%、ミレニアル  
世代: 47%

人種構成変化、圧倒的な貧富の格差、社会運動  
リーマンショック、格差の拡大、学生ローン、  
医療保険、銃規制、人種差別、気候変動、ジェ  
ンダー、LGBTQなど

### ●米国の労働組合はどう変わり、再生しつつあるのか

保守的、労使協調の新自由主義克服の運動モデルからの脱却

社会正義労働運動、社会的労働運動  
徹底した職場の組合員の組織化→労働者自身が  
行動→組織化モデルへの転換

### ●米国で広がる組合の組織化モデル VS サービスモデル

|              | 組織化モデル   | サービスモデル                                 |
|--------------|--|---|
| 使用者への対応      | 権利、協約を重視し、集団的な力の行使に集中                          | 使用者との良好な関係が最重要                          |
| 組合員の組合に対する見方 | 自身が組合そのもの、自主的に活動を組織し活動に参加する                    | 役員が長く変わらず、役員や組合スタッフのことが組合だと思っている        |
| 組合とは         | 組合員が広い運動につながっていると思える。労働組合で職場を変え、世界をより良くすると思える。 | 組合は専門集団で運動体ではないと考える。組合費に見合ったサービスを提供するもの |

### ●組織化モデルで貫かれている「大衆教育」

組合員、労働者の力を引き出す  
経験豊かな人がすべてを仕切るのではなく、仲間の経験、情報を共有して運動に踏み出す

### ●日本の労働運動、全労連でどう取り入れるか

全労連結成世代の活動家から、新しい世代に実践でトレーニング・学習教育の見直し  
労働組合で解決する経験をみんなのものに  
「資本主義が私たちに押し付けるのとは正反対の経験を労働組合で作り出すのです。」(バーバラ・マデロー二)

\*連絡先: 〒420-0851 静岡市葵区黒金町55番地 静岡交通ビル3階301号 (静岡県評内)

静岡県労働研究所 TEL 054-287-1293 FAX 054-286-7973

メール roudouadv@cy.tnc.ne.jp ホームページ <http://shizuokarouken.sakura.ne.jp/index.html>